

答辞

冬の寒さも段々と和らぎ、うらかな春の日差しが、桜ヶ丘のキャンパスを包み込む今日この頃、私たちは大学生生活最後の日を迎えることとなりました。

本学では、新型コロナウイルス感染症の国内感染拡大に鑑み、学位記授与の全体式典や、関連する行事が中止となりました。本日まで私たちを温かくご指導いただきました理事長先生をはじめ、学院長先生、学長先生、諸先生方、大学職員の皆様に御礼を申し上げることができず、痛恨の思いを抱いております。そのため、直接お伝え出来ないのが残念でありませんが、この場をお借りして御礼の言葉を贈らせていただきます。

振り返りますと4年前の春、宮城学院女子大学の一員として迎えた入学式のことを思い出されます。それまで慣れ親しんだ仲間や場所に別れを告げ、本学の門をくぐりました。憧れだった宮城学院女子大学で勉強できることの喜びと、これから過ごす時間への期待と不安が胸に込み上げたことを覚えています。

私が在籍する食品栄養学科では、管理栄養士、栄養士、栄養教諭の資格取得に向けて、様々な対象者を想定した大量調理や病態別の献立作成など、専門的かつ実践的な学習に取り組みます。恵まれた環境の中で、毎日朝から夕方まで授業や課題に熱を入れ、仲間と助け合いながら学びを深めた時間は、一生の財産となり、これからの糧になることと確信しております。

特に学外の臨地実習では、栄養指導を受けておられる患者様に考案したレシピを紹介し、実際に会話をさせていただくことで、毎日3回の食事が、生きるうえで欠かすことのできない大事な時間であり、楽しみや喜びを生み出す力になることを切に感じました。食事をする相手を想い、計画、調理、提供することの大切さを学び得たことは、これから管理栄養士としていろいろな場で食に携わる仕事をするうえでの軸となる経験となりました。

こうして大学生活に思いを馳せると、多くの人と関わり、過ごした全ての時間が今の私を形作っていると感じます。本学で築いた土台を支えに今後の人生を歩んでいきたいと思っております。

様々なことに挑戦し、失敗し、乗り越え、学んだ4年間で過ぎ、今このキャンパスに別れを告げ、新たな一步を踏み出す時が訪れました。それぞれの道をこれから開拓していく私たちは、時に、荒波に行く手を阻まれることもあるでしょう。しかし、歴史ある宮城学院女子大学の卒業生であることに誇りを持ち、自分の信じる道を切り開き、一人の女性として力強く進んでいく覚悟でございます。

現代はメディアの発達により、いつ、どこにいても世界中の人と容易に繋がることができます。このように、コミュニケーションの取り方が変わってきていることに伴い、人と人との関係も変化しつつあります。また、近年では未曾有の災害やウイルスの蔓延などの大難も多く起こっています。そんな時、人と人との支え合い、相手を思いやった行動を積み重ねること、つまり、本学の建学の精神である「隣人愛」の心を重んじた行いが、復興、終息の希望の光となるのではないかと考えます。豊かではありますが、様々な問題に直面している時代のこれからを担う世代として、本学での経験や培った精神を社会で十分に発揮していこうと思います。

最後になりましたが、4年間、私たちの大学生活を見守り、支え、ご指導くださった理事長先生をはじめ、学院長先生、学長先生、諸先生方、多方面から支援してくださいました大学職員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、今日まで私たちを信じ、応援してくれた家族、様々な壁を共に乗り越えた友人に深く感謝いたします。

終わりに、皆様のますますのご活躍とご多幸をお祈り申し上げるとともに、宮城学院女子大学のより一層の発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

2020年3月19日

宮城学院女子大学第68回卒業生 総代

食品栄養学科 香高沙奈